

米機爆撃による災害ならびに措置の概況

松 原 警 察 署

昭和二〇年一月一六日午後一時二三分ごろ、B 29一機三重県境より滋賀県をへて市内に侵入し、高度約六、〇〇〇メートル上空を一周の後、管内の各地域に二五〇ポンド級焼夷弾一個、一〇〇ポンド級瞬発性爆弾五〇個以上、二〇ポンド瞬発性爆弾二〇〇個を投下。災害発生したるをもつてただちにこの旨警察部に速報するとともに、署員ならびに管内各警防団員の非常召集を命ずるとともに、宿直待機中の署員ならびに早速かけつけた署員一七名を引率現場に出張。東山臨時駐在所を臨時署本部と定め、交通遮断線しゃだんを渋谷東山線それと京都女専裏より通路に設けた。

署員ならびに現場警防団員を指揮し、被災者の救護救出につとむ。かくするうちに、警察部警察隊、在郷軍人東山連合分会および五条・七条・川端・堀川・西陣・中立売各署員の来援あり、救護救出。人身安定のため巡ら慰問。災害調査を依頼した。

人身安定のため、当初報道班の掲出せるビラ次の如し。「デマをとばすな」「デマにまよふな」「流言は敵の謀略だ」「口をつつしみすぐ敢闘だ」「被爆地の写真撮影を禁ず」「この敵を増産で撃て」

被災者中、重軽傷者は修道国民学校応急救護所に収容、軽傷者は即時治療し、重傷者は、日

赤・東山・八坂・帝大・府大各病院に送り、治療を行なった。

死者、負傷者の発掘は一七日午後二時終了。死体は修道国民学校応急救護所に収容したのち、東山七条智積院に移転、一月一八日合同慰霊祭を執行のうえ火葬場に送致した。このあと片付けは一七日当署員六〇名、警防団員五〇〇名、在郷軍人三〇〇名、特別警備隊四〇名、一八日当署員五〇名、警防団員二五〇名、特別警備隊四五名、緊急工作隊三二〇名、一月一九日当署員四〇名、特別警備隊四五名、緊急工作隊六〇名をもってこれを行ない、緊急工作隊は引き続き応急補修に従事する。修道応急救護所に収容した死者・重傷者以外のものは、一七日一七〇名、一八日五名、一九日五名で、最後まで残った五名は、一月二〇日をもって、それぞれ各方面に折衝引き取らせた。

なお、被災者に対し米穀、その他を特別配給した。自己の居宅を全部破損され居住不可能で移転先あるものは、全家族移転するものよりさきとし、トラックをあっせんした。本事務は一月一八日当初において取扱件数三件あり。この行先は、下鳥羽一、伏見一、滋賀県水口一。一月一八日以降は府輸送課員が出張してこれを行なった。破損した水道・ガス電気等は、水道一月一七日正午、電気ガスは一月一七日夕刻までに応急復旧をみた。

町 災害に対する義援金、一月二一日現在六、三五四円、うち四、二〇九円九〇銭は、修道学区
馬 町内会連合会会長河内長右衛門に引き渡し、町内連合会会長を通じて被災者に支払した。
六 物的損害額、約三五万円

京師—京都師範学校

舞二高女—舞鶴第二高等女学校

洛北実務—京都市立洛北実務女学校

二、宮津

死亡者

(1) 上家 利治郎

五一

(2) 中村 初枝

五一

(3) 中村 広志

一八

(4) 比賀 道

一一

負傷者

(1) 三森 一幸

一一

(2) 牛田 幸子

一一

三、大宮

負傷者

(1) 田村 庄治

一一

四、馬町

死亡者

(1) 安土 文子

一一

(2) 安土 光典

一六

(3) 石本 心教

五九

(4) 石本 心雄

三一

(5) 伊藤 政子

一一

(6) 井上 美和子

一一

(7) 今中 邦三

二五

(8) 今中 タマ

五六

(9) 叶 今平

九

(10) 阪田家 一家

四名

(11) 相良 した栄

五七

(12) 杉本 つき

四八

(13) 竹橋 朝子

一六

(14) 竹橋 友次郎

五七

(15) 竹橋 マサ

六〇

(16) 田中 キノ

七

(17) 田中 藤生

七

(18) 寺田 京子

七

(19) 服部 たつ

三八

(20) 服部 泰忠

一〇

(21) 浜田 君子

三七

(22) 浜田 鶴吉

三八

(23) 林 定雄

四八

五、西陣
死亡者

負傷者

(2)	(1)	(38)	(37)	(36)	(35)	(34)	(33)	(32)	(31)	(30)	(29)	(28)	(27)	(26)	(25)	(24)
本江源一	井上孝哉	山本房子	山本俊雄	山本節子	山本茂	山本左枝	山田とみえ	山田玉子	山田邦三	前川滋子	本江良子	藤原教生	福田政子	平井よし春	平井ハシ	平井喜美子

		七	二	二	一〇	三一	四五	二七				二六	三〇		一一	三
--	--	---	---	---	----	----	----	----	--	--	--	----	----	--	----	---

(20)	(19)	(18)	(17)	(16)	(15)	(14)	(13)	(12)	(11)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
斎藤 育	加納 みつ	加納 常次郎	奥村 熊太郎	太田垣 毅一	今西 ぬい	今西 徳蔵	井藤 隆子	石田 善万	朝川 勲	朝川 栄美子	朝川 富栄	秋田 満子	秋田 貞子	秋田 博志	秋田 清司	秋田 佳子	秋田 節子	秋田 藤蔵	秋田 ふさ

六四	五八	六〇	六一	二一	五〇	六〇	八	一〇	四	六	九	二	四	五	七	九	三六	七一	七四
----	----	----	----	----	----	----	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

茨木 幸雄	今井チエ子	今田謙四郎
岩泉 秀夫	上野 実	鶴飼 豊造
牛田 幸子	内海 和子	大江 弘一
大槻 勉	大西 清	大西 秀雄
大橋津満子	岡村 常二	岡本留三郎
加藤 哲男	喜尾野 茂	熊原 太郎
小菅 謙蔵	小谷 正男	小山 米次
阪原 幸夫	色磨 久善	柴田 利衛
渋谷 光雄	菅沼 保	瀬野 初男
瀬野 正章	高橋 滋	立道 団造
田中 九三	谷口 次郎	田渕千世子
永井 享	中西 茂	仲田 一郎
成田 浩子	西口 浪子	橋本 正夫
橋本 時代	浜野 芳蔵	馬場 泰
藤田 貞蔵	宝珠山義人	前田徳次郎
卷田 治	溝口 進	三森 一幸
水上 邦隆	村井 ハル	山本 喜楽
由利根興世	吉岡 時夫	吉田 美昌
芳村佐太郎		

京都教育大学

京都市立西京商業高等学校

京都府援護課

京都府広報課

京都府立総合資料館

京都府立東舞鶴高等学校

厚生省援護局業務第二課

国立舞鶴病院

長岡京市中央公民館

日立造船舞鶴工場

日立造船労働組合

福知山淑徳高等女学校

福知山商業高等学校

舞鶴共済病院

舞鶴市役所

舞鶴市史編さん室

舞鶴市西遺族会

舞鶴市立舞鶴西図書館

舞鶴市立三笠小学校

三、中郡

宮津平和委員会

足立 覚治	稲垣 真一	上垣美代子
大江弥一郎	大森 金蔵	久古 睦治
上家 満枝	竹繩 雄吉	中村 貞夫
比賀 掃部	広瀬 公二	宮野 民治
吉本 広	和田野清三郎	

糸井 尚太	嶋田 妙子	鈴木富三郎
多治見 学	田村 庄治	野村 都
藤村 恒雄	細野 次郎	間渕 俊一
大宮町立第一小学校		

峯山会

四、榎

東村敬太郎	堀江源之助	山口 文隆
-------	-------	-------

五、保津町

大橋 すみ	関本 つる	関本 秀次
村上 肇	吉田 志厚	

六、馬町

個 人

一花 一枝	井上 文子	井上 義郎
-------	-------	-------

団 体

京都市立修道小学校

京都女子学園

京都新聞社

松原警察署

七、西陣

個 人

秋田 昇一	磯崎 幸典	井上寿美子
小笹時之助	小関 誠一	小関 とよ
小柴 永吉	佐々木せつ	寺石 信治
林 つゆ	林田 茂	日野 要
広瀬秀太郎	堀 英一	三井三次郎
吉村 半		

団 体

京都市衛生局

京都市立正親小学校

(国立舞鶴病院所蔵)

3、女子挺身隊

(1) 久遠

女子挺身隊 後藤隊員を追憶する文集

(2) 文集

女子挺身隊の日記

(3) 朝日、京都、産経、読売新聞、昭和四七年一月一六日

(元女子挺身隊員三名、舞鶴訪問について)

(4) 女子勤務員心得

舞鶴海軍工廠

(京都第一次女子挺身隊員 成田浩子氏蔵)

4、学徒動員

(1) 学徒動員に関する一件綴 (京都青年師範学校の書類昭和一九〇昭和二〇) から

内容

学徒出動の件

学校報国隊出動令書

罹災、疎開生徒の件

出動下令の電報

学校農場要員

工場ニ於ケル学徒勤労刷新改善ニ関スル件

農繁期動員ニ関スル件

農業ニ関スル学徒勤労ノ強化刷新ニ関スル件

(2) 学徒動員学校配当一覽

京都府 昭和一九

内容…各学校の動員先、人数

(3) 学徒動員に関する件 (新居知事から三好知事への引継文書 昭和二〇年六月)

(4) 「泉源—開校二〇周年記念—」

東舞鶴高校 昭和四四

内容…学徒動員、空襲、藤田先生の死など

(5) 「成美学苑百年の歩み」

福知山商業学校 昭和四五

内容…戦時下の教育 (学徒動員など)

5、そのほか

(1) 「全日本造船機械労働組合二十年史」

13	川崎市	「川崎空襲・戦災の記録」編集委員会	川崎市川崎区宮本町一 川崎市役所総務局文書課	〇四(24)七二一
14	長岡市	長岡戦災復興誌編集委員会	長岡市学校町一 笠輪勝太郎方	
15	甲府市	山梨県平和委員会	甲府市宮前町二の四 愛宕寮	〇五三(53)八四三
16	静岡市	静岡市空襲を記録する会	静岡市呉服町二の三の一 ふしみやビル八階 小長井政経事務所	〇五四(52)〇七六
17	浜松市	浜松空襲・戦災を記録する会	浜松市元城町三の二 浜松市福祉事務所社会課内	〇五三(54)一一二
18	名古屋市	名古屋空襲を記録する会	名古屋市千種区猪高町上社字八郎一の四 織田三乗方	〇五三(70)〇四三
19	一宮市	一宮空襲	愛知県西春日井郡西枇杷島町北大和町三三 犬飼忠雄方	
20	大阪市	大阪空襲を語る会	大阪市東淀川区十三西の町五の一 淀川職安食堂内	〇六(30)九二六
21	京都市	京都空襲を記録する会	京都市上京区北野一番町 立本寺内	〇七五(46)六五二
22	神戸市	神戸空襲を記録する会	神戸市生田区三宮町一の一七 ミヤワキビル 市民同友会内	〇三九(39)四三六
23	姫路市	姫路空襲を語り継ぐ会	姫路市駅ビル4階、姫路文連事務所内	
24	広島市	広島原爆戦災誌刊行会	広島市中島町一の二 広島平和記念資料館内	〇八三(41)四〇四
25	福山市	福山市民友の会	福山市昭和町四の四	〇二二(22)一四六
26	高松市	高松空襲を記録する会	高松市仏生山町甲三、五〇の六 赤山勇方	
27	徳島市	徳島空襲を記録する会	徳島市佐古一番町二の七 泉谷ビル内	〇二二(22)二〇一
28	高知市	高知詩人会議	高知市吾川郡伊野町枝川八五 西森方	
29	福岡市	原水爆禁止福岡県協議会	福岡市天神一の一 福岡県庁内	〇七四(74)九二六
30	北九州市	北九州空襲を記録する会	北九州市八幡区末広町八の三 重田方	〇八八(81)八六五

- 31 久留米市 久留米空襲体験記編集会
 32 大牟田市 大牟田の空襲を記録する会
 33 長崎市 「長崎の証言」刊行委員会
 34 鹿児島市 鹿児島空襲を記録する会
 35 那覇市 那覇市役所市史編集室

久留米市繩手町二九 山下良太郎方
 大牟田市臼井新町一の一〇〇 前田義則方
 長崎市若草町五の四 広瀬方人方
 鹿児島市長田町二六の四 椋鳩十方
 那覇市泉崎一の一

(3)〇二一・〇三二

(2)三六五

(4)三五六

(22)九三八

八 写真図版提供者一覧

資料名

提供者

口絵、下馬町付近民家

(宮川友治)

口絵、出水地域におとされた二五キロ爆弾の破片

口絵、秋田、小柴両家の倒壊家屋

(小柴永吉)

口絵、舞鶴海軍工廠の防空壕あと

口絵、洛北実務女学校の動員学徒

(橋本時代)

口絵、降伏勧告のビラ

(谷口房治)

口絵、第二回被爆者追悼市民集会

六、京都府内旧日本軍隊軍事基地図

七、京都府内被爆地図

九、京都空襲被害一覧表

- 一八、爆弾投下地点 (日立造船株)
- 八二、阪原幸夫氏の日記 (阪原幸夫)
- 九二、学徒動員のマーク (読売新聞社刊『紅の皿は燃ゆる』から)
- 一〇六、桃山児童公園防空壕
- 一一六、宮津市内被爆地図 (峯山会)
- 一二九、河辺飛行場畑中の爆弾あと
- 一二九、河辺国民学校の空襲のあった日の日誌
- 一三一、民家の弾痕
- 一三一、河辺飛行場にあがる爆煙 (峯山会)
- 一三五、河辺飛行場あと
- 一三七、榎爆弾投下場所
- 一四三、馬町の被爆家屋 (京都新聞社)
- 一五〇、京女第三小松寮 (宮川友治)
- 一五八、現在の京女馬町校舎南から北望
- 一六〇、下馬町東南部の民家
- 一六五、現在の京都幼稚園 (京都新聞社)
- 一六六、当時の新聞記事「京都新聞」昭和二〇年一月一八日付
- 一七〇、出水地域の被爆地図
- 一七六、空襲記事(「京都新聞」昭和二〇年六月二七日付)
- 一八〇、罹災者証明書 (井上寿美子)

一八三、強制疎開あと

(京都府議会)

二〇三、爆弾破片

(藤村ナラエ蔵)

二一一、奈良電鉄沿線の被爆地図

二一二、関西電力変電所

二一四、神足駅周辺の被爆地図

二二三、うちぬかれたタンスと藁きょう

京都空襲についてご存知のかたは、
次のところへご連絡ください。

○ 京都空襲を記録する会

603 京都市上京区北野一番町立本寺内
電話 (075) 461 - 6 5 1 6

○ 京都府立総合資料館

606 京都市左京区下鴨半木町
電話 (075) 781-9101

かくされていた空襲 — 京都空襲の体験と記録 —

1974年4月15日 初版印刷

編 集 京都空襲を記録する会
京都府立総合資料館

発 行 今 田 保

印 刷 吉 川 健 一

発行所 汐 文 社

京都市下京区七条河原町西南角
東京都千代田区外神田2の1の4